福岡県の主な農産物の生産状況

令和４年９月 15 日現在
（専技情報より抜粋）

◇普通期水稲（夢つくし、元気つくし、ヒノヒカリなど）◇
「夢つくし」の収穫は９月初め頃から開始しています。収穫最盛期は平年並みの９月 10～18 日頃の見込みです。
穂数は平年より多いですが、出穂後の降雨による穂枯れ症が多く、収量は平年並みの見込みです。
「元気つくし」の収穫は９月 22～30 日頃、「ヒノヒカリ」の収穫は 10 月５～10 日頃の見込みです。穂数は平年並みですが、台風 11 号により倒伏が一部で見られ、登熟歩合の低下が懸念されます。
トビイロウンカの発生は、平年より少ないです。
収穫時期は、出穂後の積算気温と黄褐色籾比率、籾水分を確認して決定し、刈り遅れないよう留意しましょう。
熟期が「元気つくし」以降の品種は、間断かん水を実施し早期落水を避けましょう。

◇大豆◇
現在着莢期で、約８割のほ場で適期に播種されたことから、生育は順調です。
７月下旬以降の遅播きは、播種後の乾燥により生育量が少ないです。
７月中旬播種の開花期は８月 20 日頃、７月下旬播種は８月末～９月初旬で、平年並み～１日程度遅いです。
台風 11 号により一部で倒伏や潮風害が見られるものの、着莢数は平年並みの見込みです。
ハスモンヨトウ等による食害が増加しています。
８月中下旬の降雨により雑草が増加傾向で、一部では、帰化アサガオ類などの難防除雑草が多発しています。
乾燥が続く場合は、暗渠の栓を閉め、乾燥害を防ぎましょう。
紫斑病は対策を徹底しましょう。ハスモンヨトウやカメムシ類は、発生動向を把握して適期に対策を実施しましょう。
雑草の発生が多いほ場では、収穫までに抜き取りを行いましょう。

◇イチゴ◇
苗の生育は、局地的な大雨や台風 11 号の接近があったものの、徒長も少なく

充実は良好です。
早期作型は、概ね予定どおり入庫が行われ、花芽分化も順調です。普通作型の花芽分化は、９月の気温が高い日が多く、平年よりやや遅い９月 23～27 日頃となる見込みです。
定植は、中山間地域で９月上旬から開始、平坦地は９月中旬から順次開始の予定です。
病害虫については、炭疽病等の発生により一部の産地で苗不足が懸念されており、定植が進んだ段階で、必要に応じ産地間調整を検討します。
その他、ハダニ類、アブラムシ類、ハスモンヨトウの発生が見られます。
花芽分化の確認後は速やかに定植をすすめましょう。ほ場が過湿の場合は無理な畝立てや定植を行わないようにしましょう。
病害虫の対策を徹底しましょう。

◇キウイフルーツ◇
台風 11 号により、一部で落葉や果実の傷が見られるものの、被害程度は小さいです。
「レインボーレッド」は９月 23～25 日に集荷予定です。かいよう病の発生に伴う園地の減少と春先の晩霜被害により、予想集荷量は 64t と前年より少ない見込みです。
「甘うぃ」は 10 月上旬から収穫開始です。結実、肥大ともに良好で、予想集荷量は 310 t 程度と前年より多くなる見込みです。
「ヘイワード」は 11 月上旬から収穫予定です。結実は前年より良好で、肥大は平年並みで推移しています。予想集荷量は 3,100t 程度で前年より多くなる見込みです。
収穫果実は、果実温が上がらないように日陰に置きましょう。また、台風により落葉した園地では、日焼け果対策として傘かけ等を実施しましょう。
果実が濡れると、収穫後に腐敗しやすくなるため、雨天日には収穫しないようにしましょう。

◇モモ◇
露地「川中島白桃」が８月上旬で出荷終了しています。
６月出荷のハウスはやや小玉であったものの、品質は良好です。露地は果実肥大、品質ともに良好です。
出荷量は平年比 104％、販売単価は 114％で、販売金額は 119％となり、大幅に増加しています。
台風 11 号の強風によりせん孔細菌病の発生が懸念されるため、対策を徹底し

ましょう。
過繁茂による結果枝の充実低下を防ぐため、９月中旬から秋季せん定を行いましょう。

◇トルコギキョウ◇
６～８月の出荷量は前年並みで、販売単価は低下したものの、過去５年比では高く推移しています。
秋出荷作型（10～11 月出荷）の生育は、８月の高温の影響により生育が前進傾向で、例年よりやや早い９月中旬から出荷が開始しています。生育はおおむね順調です。
無駄芽や不要な側枝は早めにかぎとり、主茎の充実に努めましょう。
チップバーンが発生したほ場では、特に灰色かび病の発生に注意しましょう。
高温期の斑点病は、退緑病斑となり発見が遅れ易いため、早期発見に努め、防除を徹底しましょう。

◇肉用牛・豚・鶏◇
牛枝肉単価は、暑熱による消費減退と、コロナ感染拡大により外食需要や帰省需要が低調で、和牛去勢は前年、過去５年平均を下回りました。価格が高騰している輸入牛肉の代替需要が堅調なため省令価格は例年並みの価格を維持しています。
豚枝肉価格は、同様に外食需要等が伸び悩みましたが、輸入豚肉の価格高騰で代替需要が堅調なため前年比、過去５年平均比ともに上回りました。
鶏卵価格は、業務用等の需要回復や生産コストの上昇などを受けて、過去５年平均比 124％と大きく上回りました。
残暑への対策で引き続き送風等の暑熱対策を継続しましょう。
台風など天候状況を注視し、飼料作物の収量や品質確保のため、調整法や収穫時期の変更など臨機応変な対応を行いましょう。